

平成 26 年 2 月 19 日  
ルネサンス豊田高等学校  
校長 犬塚 清和



## 平成 24 年度 ルネサンス豊田高等学校 自己評価書

### 【概要】

#### 1 学校の概況（平成 25 年 3 月 31 日現在）※教職員数は平成 25 年 5 月末現在

学校名	ルネサンス豊田高等学校	課程	広域通信制・単位制・普通科
住所	豊田市藤沢町丸竹 1 8 2		
学校長	犬塚 清和		
教職員	校長 1 名、副校長 1 名、教頭 1 名、事務長 1 名 教諭 17 名、養護教諭 3 名、事務・用務 2 名 合計 26 名（男女比 16:10）		
生徒数	1,689 名【入学定員 3,000 名】		

#### 2 建学の精神・教育方針

SNS 及びツイッターの登場、スマートフォンの普及、タブレット型 PC の誕生などは、携帯電話・インターネットによるコミュニケーションの第 2 世代を形成している。今後も様々新たな通信のあり方及びそのツールが誕生するであろう。当校は、第一に、新しい世代の通信手段を用いるという意味において、次世代型の通信制高校を目指す。

通信制高校の制度は、本来、就労に多くの時間を費やす勤労青少年のために創設された。近年は、むしろ、不登校・中途退学者の再チャレンジを支援する学校として、通信制高校は一定の社会的認知を得ている。当校は、これら従来の通信制高校の役割にとどまらず、新たな通信制高校の理念として「自らの夢を実現するための場」となることを目指す。全日制・定時制高校の補完物としての通信制高校から大きく前進し、自ら固有の付加価値を有する学校として、通信制高校こそが切り開く未来があることを提唱し実現する。すなわち、当校は、第二に、新しい理念を持ち従来の通信性高校を大きく前進させる機能を果たす意味において、次世代型の通信制高校を目指す。

これらの特長を有する通信制高校として、当校は、新しいコミュニケーションに精通し、そのことで自らの未来を切り開く、新しい時代を担う人材を養成することを建学の理念とする。

### 3 スクーリングの概況・卒業生数・進路

○平成 24 年度スクーリング参加生徒数：1,619 名

※平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日に行われたスクーリングに参加した生徒数の合計。

○卒業生：平成 24 年度卒業生 584 名、開校以来通算 686 名（平成 25 年 3 月 31 日現在）

○卒業生の進路（平成 24 年度）

大学・短大・専門学校等への進学 30.3%          就職 10.4%

その他（家事手伝い、現在の仕事継続等） 59.2%

### 4 平成 24 年度活動の概要

平成 24 年度は新たに板倉正典副校長、牛山教頭、体育教員 2 名が赴任。人員体制の強化を図る。

開校以来の卒業生は 686 名となり、在籍生徒数は、昨年度 873 名から 1689 名に増えた。

卒業後の進路に関しては、4 年制大学で、早稲田大学、法政大学、立正大学、東京工芸大学、などへの合格を果たしている。一方で就職に関しては、震災後の振るわない日本経済に影響され、厳しい結果だった。そのため、現在の仕事や非正規雇用を継続するといった生徒が多くなった。

#### ■成果が認められる点

- ① 在籍生徒数は 1,600 名を超え、今後も増加傾向にある。
- ② 全国から集まる約 1,600 名の生徒がスクーリングに参加し、豊田市での体験学習・見学学習、宿泊等を通じて町内の産業や文化に接する機会をもっている。
- ③ 平成 24 年度 584 名の卒業生を送り出している。
- ④ 卒業生の進路に関して、担任と東京本部が密接に連携し、本人の希望を最大限に尊重して指導に当たっている。
- ⑤ 生徒数に応じた教員数を確保・配置し、密度の濃い教育ができるようにしている。
- ⑥ 担任教員の定期連絡時での記録やスクーリングに参加した際のデータ蓄積が適宜行われており、定期的な職員会議にて情報共有し適切な対応や対策を行っている。
- ⑦ 本校の校舎は通信制高等学校の校舎として十分な施設・設備を備えている点で評価できる。

#### ■さらに努力すべき点

- ① 今後も生徒数が増加することが予想されるので、研修や日常実践の中で教員の教育サービス意識を高め、教育の質を向上させる。
- ② より豊田市と地域に開かれた学校を目指す。

- ③電話やメール、PCによる進路情報の伝達をよりきめ細やかに行うことで、生徒が希望する進路へ向かうことができる指導を実施する。
- ④生徒数の増加に伴い、生徒一人ひとりへの指導が希薄にならぬよう、これまで以上に生徒の状況把握と教職員での情報共有に努め、平時及びスクーリング時の指導を行っていく必要がある。
- ⑤生徒が1年に1回のスクーリングを快適かつ意義あるものとして過ごせるように、校舎環境の美化・適切な修繕など、より一層利便性の向上・安全衛生の確保に努めていく。

## 5 自己評価書の評価手法

教職員にヒアリングの上、学校評価・改善委員会にて実施。

### 学校評価・改善委員会

委員長：犬塚 清和（校長）

副委員長：板倉 正典（副校長）

委員：牛山 尚也（教頭）

委員：台野 郁朗（事務長）

委員：萩原 貴之（教務）

委員：中原 孝宜（教員）

委員：大山 真寿美（事務）

## 【学校運営の各種状況】

### 特区法第 12 条に基づく評価項目に基づく自己評価

#### 1 組織運営の状況

##### (1) 組織運営の状況

###### ①問題発生時の対応体制及び日常の状況共有体制について

全教職員に会社支給の携帯電話を支給し 24 時間体制で連絡及び情報共有している。緊急時及び問題発生時は第一責任者（原則は事務長）を指定し対応。情報が分散しないよう配慮し、解決に向けて効率的に動けるよう体制を整えている。また災害時対応の為、防災マニュアルを設置している。

その他、体調不良者への対応として、内科（おかもとクリニック）、歯科（水野歯科）、薬局（ホワイト調剤薬局）を学校医として提携。生徒は優先的に診察をしてもらうことが可能で、迅速に対応できるようにしている。

###### ②教職員の役割分担の明確性について

平成 24 年度は、教員及び事務職員のそれぞれの役割分担のもと、全員で補いあいながら運営をしていた。生徒数も増え、業務分担をより明確にする必要が出てきている。今後は、校務分掌等による役割分担を明確にし、より適切に運営できるよう体制を整えていく。

###### ③個人情報等の管理方法

当校では個人情報を適切に扱う為に、以下の対策を実施している。

- ・紙媒体の個人情報は鍵付きキャビネットに保管している。
- ・電子情報は東京の専用サーバーにて保管し、ログイン時には個人別 ID、パスワードの入力を要求する等、セキュリティ管理体制を整えている。
- ・PC 不使用時、PC のロックシステム（個人に ID 発行）をかけている。

次年度以降、より社会的にも信頼を得る為、P マーク取得に向けて動いていく予定である。

###### ④設置基準を満たした適正な学校経営

本校の校舎は、「高等学校通信教育規程」に規定する施設[教室、図書室、保健室、職員室]及びスクーリング時の教育に必要な設備[視聴覚設備、図書、保健関係備品等]を備えている。また、本校は、旧藤沢小学校の校舎・校地活用という地域ニーズに基づき設置されたため、旧小学校の校舎をそのまま引き継ぐが、教育活動に支障は生じていない。

今後は、図書室の蔵書の増加、利用の促進。夏期、冬期により快適にスクーリングに参加をして頂けるよう冷暖房の充実化等、よりよい環境を整備することが必要である。

## (2) 設置者の状況

### ① 学校経営の安定性

ルネサンス・アカデミー株式会社が豊田校と大子校の2校を運営している。両校合わせ3900名を超える生徒が在籍。単年度黒字経営、累積赤字もかかえていない。今後は、経営資源を教育内容の充実に投入させていくことにより、生徒への満足度を高めていく方針である。

### ② 業務状況書類等の閲覧希望者への対応状況

当該年度の財務諸表及び事業報告書を専用サーバーから打ち出して閲覧して頂ける体制をとっている。

## (3) 施設・設備等の状況

### ① 設備及び設備、教具の状況

生徒数も1,600名を超え、スクーリング参加の人数も増加傾向にある。生徒の円滑な受入を実現する為に「教具の充実」及び「教室の増床」を行った。

中でも大規模改修として体育館棟2階のリノベーションを年度末に実施。ホール、前室、集会室と図書室の一部を統合し、40名受入可能な教室を設置。2グループ同時受入を円滑に行える施設を整えた。その他、体育関連器具、家庭科器具等、必要に応じてその都度設備を整えスクーリングを実施した。

#### (4) 目標設定と自己評価の状況

##### ① 目標設定について

通信制高校の強みは「高卒資格取得の基本学習をしながら、自分のやりたいことにチャレンジできる。」ということにあります。「目覚めよ！自分力。」と称し、やりたいことにチャレンジし、勉強の楽しさを感じ取ってもらう。また、自立した大人へのステップを後押ししていくことを学校運営の目的としている。

スクーリングについては「楽しかった。また来たい。」と生徒が感じることができるスクーリングを目指し、日々、業務の研鑽に取り組んでいる。

##### ② 自己評価項目の設定状況

自己評価書の作成及び開示、実施する。

##### ③ 生徒・保護者アンケートの実施方法

各種アンケートを適宜実施している。「①スクーリングに来た生徒」「②親子スクーリング時の保護者アンケート」を実施している。

アンケート回収後、①・②については職員会議にて公表し、その改善について協議し改善につなげている。主に「食事」や「ホテルの部屋」といったスクーリング時の生活面について論点となることが多い。すぐに対応できるものは、アンケートの翌週には対応している。

#### (5) 学校関係者評価の状況

##### ① 学校関係者評価の実施状況

自己評価の経験を踏まえ、今後、学校関係者評価を実施する予定である。自己評価や学校関係者評価実施に際しアドバイザー選定や特区学校審議会を活用するなど、外部の意見を取り入れ学校運営に生かしていく取り組みを進めていく。

#### (6) 学校に関する情報提供の状況

##### ①適切な学校情報の提供について（保護者・地域向け）

生徒の保護者に対して学校通信を年12回以上保護者に向けて配布。行事や支援金のことなど必定的な情報を提供している。また、スクーリング日程確定時には、保護者宛に郵送で書面を送っており、生徒単独では判断ができない体制をとっている。

地域住民に対しては不定期であるが来校して下さる区長様を通じて、学校情報を提供している。

## 2 授業等の状況

### (1) 教育課程等の状況

#### ① 生徒の学力に応じた教育課程の編成について

単位制高校の為、入学時にまず3年間の履修コースを決定。コースは文系・理系・標準の3コースを用意。コースは固定ではなく、年次が上がるごとに変更可としている。

また、ダブルスクールプログラムとして「大学進学コース」、「海外留学コース」、「英会話コース」、「パソコン実用コース」、「芸能コース」、「美容師養成コース」、「ビューティーコース」、「声優コース」などを設置し、生徒の夢の実現を後押しするプログラムを用意している。

今後は課外学習として習熟度に合わせた学習がインターネットで行えるように今後システムを構築していく。

### (2) 学習指導等の状況

#### ① 添削指導の実施について

開校当初よりEラーニングを活用したレポートシステムを採用。スマートフォンやタブレット端末、PCといったメディアツールを用いたレポートシステムを活用して、生徒の時間的・空間的拘束を軽減し、時間や場所を選ばずに学習できるシステムを採用している。レポートは、記述式・択一式・複数選択式・並べ替え式・マッチング式・穴埋め式などの多様な設問方式の導入や当校教員による解説動画を用意するなど生徒の学習意欲の維持向上を図るために工夫している。

その他、教科書に付随する解説ビデオなどもインターネットで見られるようにしている。進捗状況も一目でわかるようシステムを構築。担任も定期的に進捗状況を確認をし、遅れがある場合は適宜指導している。

自宅学習サポートとしては、WEBカメラを活用し、担任とやり取りしたり、少人数のホームルームを実施したりもしている。

なお、平成 25 年度より在校生・新入生全員にタブレット端末 (iPad mini) を配布することとした。直感的な操作のできるタブレット端末を活用することで生徒が「より楽しく」「より快適に」レポート学習をすることが期待できる。

## ② 面接指導の実施について

スクーリングが面接指導の中心。授業に、仮説実験授業研究会の教員を配置し（具体的には「理科」「社会」「美術」、学ぶ楽しさ、創造する喜び、多角的な視野の醸成などを体感する機会を提供している。

また体験的な学習を多く実施。宿泊施設でも課題に沿って学習するなど充実した面接指導を行っている。

年に 1 度 (3 泊 4 日) のスクーリングであるため、担任の教員と生徒が接することができる貴重な機会でもある。進路指導の時間も設け、進学・就職の相談も行っている。

スクーリングのコースとしては、女子・男子・成人・親子などニーズに応じて設定し参加しやすい環境を整えている。

## ③ 適切な試験の実施

定期テストは、試験期間を設定し実施している。通信制高等学校の特性を活かし、パソコン、タブレットによる受験方式を採用。迅速な採点、その後の適切な単位認定につなげている。試験問題は択一式が中心。今後はより理解度を図るため、記述式による回答方式を充実させていくことを検討していく。

## ④ 生徒の履修状況の適切な管理

入学時に卒業までの履修コースを決めている。転校生は、卒業までに必要な単位が異なるので情報を提供しながら決定していく。履修情報は、必要に応じて、専用の個別パスワードを用いて教員が閲覧することが可能。各担任の生徒への適切な指導ができる体制を整えている。

## ⑤ 問題を抱える生徒への対応方法について (生徒指導)

### 平時

担任教員が電話やメール、面接などにより、学習面や日常生活などについての不安や悩みなどに対して適切な助言や支援を行っている。また、指導経過を随時記録し、事後指導に活用している。



### スクーリング時

平時に集約した生徒指導データを基に事前会議で情報を教職員が共有し、配慮が必要な生徒については具体的な対応を協議している（未然防止）。また、スクーリング実施中における生徒指導案件に関しては、教務主任や生徒指導主事、保健指導主事を中心とした対応を行っている（生徒の心理的な状況に応じて個室での学習をさせるなど対応している）。

また、心理面で通常のスクーリングに参加するのが難しい生徒については個室での個別対応もニーズに合わせて実施している。

## (3) 教職員研修の状況

### ①教員の資質・能力の育成

民間研修団体への教職員の参加と、新規採用教職員研修を実施。また経験豊富な教員による OJT 研修を実施している。来年度からは階層別に研修を実施し、教員のレベルの向上を図る予定。

## 3 指導・管理の状況

### (1) 生徒指導の状況

#### ①学習への意欲や基本的な生活習慣の確立のための適切な指導について

担任制を導入。生徒にとっては相談し易い環境。また教員にとっても責任感をもって対応することができる仕組みを採用している。情報が曖昧にならぬよう、生徒カルテ（電子記録簿）と呼ばれる記録簿を使用し、指導状況を一元管理。担任のみならず、養護教諭、事務担当もそれぞれの対応を記載している。生活習慣の指導については、希望に応じて、1日のスケジュール管理についての指導を行っている。また希望のない場合でも、スクーリング参加時に不規則な生活が見られる場合は指導を行っている。

各生徒への連絡については、SNS を活用し、担任対複数の生徒のやり取りができるよう工夫をしている。

### (2) 保健管理の状況（心のケアや問題行動の専門家との連携について）

養護教諭を配置し、スクーリング中、生徒の体調・心理面でケアが必要と判断した場合は病院搬送や帰宅させる等の対応をしている。ただし、スクールカウンセラーなど専門家との連携は未実施である。医師や専門機関との連携を行っていくことが今後の課題である。

### (3) 進路指導の状況（生徒の状況に応じた進路の実施について）

担任が生徒の希望を聞き、進路専門担当者と連携しながら指導をしている。スクーリング実施時には個別に面談を行い、早期に進路について考える機会を提供している。3年次には、進学対策（学習、面接、論文指導等）、就職対策（応募書類添削、面接対策）を実施。成果が出てきている。

しかしながら、現行、進学対策、就職対策は担任レベルによる個別対応。今後は、進路についてより体系的に支援できる体制を構築していくことが課題である。

## 4 地域・保護者等との連携協力の状況

### (1) 意見要望等の状況

#### ① 生徒・保護者からの意見や要望の聴取状況と意見等への対応

生徒・保護者へのアンケート調査をスクーリング時に実施し要望を聞いている。原則、翌週のスクーリング会議で職員全員で協議。反映できるものは早期に対応。東京本部との調整が必要なものは事務長より打診し対応する体制をとっている。

#### ② 地域からの意見や要望の聴取状況と意見等への対応

今年度は地域の意見を踏まえ草刈り業務を自治区に委託した。今後も必要に応じて地域との協議を行い、要望を伺っていく予定。

### (2) 地域との連携・交流の状況（地域の教育資源や人材の活用）

スクーリングの体験学習では足助・小原地区の体験学習施設（足助屋敷）訪問や豊田自動車やキューピーの工場見学を実施。また周辺地域から職員を採用している。平成25年度4月からも1名豊田市在住の職員を採用・配属予定。

以 上